

【発行】大船渡仮設住宅支援事業
〒022-0004
岩手県大船渡市猪川町字長洞 62-1
大船渡仮設住宅支援事業事務局内
TEL : 0120-628-638
E-Mail : ofnt_otoiwase@yahoo.co.jp
Web : http://ofunatocity.jp

大船渡仮設住宅 支援員新聞

No.14 9月号
2013.

はまらい



歌手 奥野ひかるさん

今回のインタビューは仮設住宅にお住まいの方なら皆さんご存知！奥野ひかるさんです。奥野さんには震災後から大船渡の仮設住宅に毎月来ていただいております。陸前高田市や大槌町での仮設ライブも合わせると、なんと150ヶ所もの公演を行っています。毎回、力強い歌と爆笑トークで住民の方々に元気を与えてくださる奥野さん。大船渡に初めて来てから1年半経った今の想いを伺いました。

あの
人
に
イン
タ
ビ
ュ
ー

「まだ来てよ！」 の一言で続けてこれた

Q今日の衣装は白とブルーがさわやかで素敵ですね!!

いいでしょー？衣装はいつも妹が作ってくれるんですよー。今日のこの色を着てきたのはね、この

皆さんは「もう大丈夫だな」って思ったから。心の復興が進んでいくの。もう何度も私を呼んでくださって、笑顔で聞いてくださるから。初めて大船渡に来る時、私

へこむと元気をあげられないから、笑顔が出るようなライブを目指したいと思って、あえて明るい色を選んで着てきましたよ。

Q衣装の色にも奥野さんの想いがあったんですね。仮設ライブを始めた当初はどんな反応でしたか？

▲ こぶしを握り、力強い歌声で盛り上げてくれます
もうね、私のライブを見て泣くんですよ、皆さん。みんな復興とか仮設住宅という新しいコミュニティでがんばりすぎて、気持ちが緊張していらっしやう。一気にタガが外れるんでしょーね。でも皆さんと一緒に歌っ



▲ 皆さんも一緒に！ソイヤー！！

んー、今のところ予定はないですね。やっていく中で見えてくることがあるんですよ。だから先の事は考えない。災害公営住宅でも回ろうかな？その時の空気にあわせて何かできればいいですね。その時にはまた違った笑顔が見られると思う。

今後、仮設住宅がどんどん減っていくと思いますが、その時はどのような活動をされる予定ですか？

それからね、私いろんな場所で講演もさせて頂いてるんですけど、私は東北に来て、見て、感じてきたことがある。私はマイク1本でいっぺんに多くの人に伝えることができるから、私が感じてきたことを微力でもたくさんの人に発信できれば、と思ってます。



▲ 大田仮設団地にて。くじ引きが始まりました

て踊って笑って泣いて。私の方が元氣貰ってるんですよ、ほんとに！最初この仮設ライブツアーを決

めるときにね、「私に何ができるんだろう」ってすごく迷ったんですよ。私みたいなのがずかずか入っていったいいの。でも皆さんに

元気になってほしくて！前を向いてほしくて！「また来て」って言われたら続けようと思ってるんですよ。



夏の行事でにぎわい

団地で盆踊りや納涼祭開催

8月は、数ヶ所の仮設団地で盆踊りや納涼祭などが開催されました。各イベントとも県内外からの多くのボランティアや学生が協力し、かき氷

や焼き鳥、やきそばなどを安く提供。親子連れから年配の方、夏休み中の子供達など多くの住民の方々が訪れていました。

末崎町の大田仮設団地では、遠野まごころネットの協力で盆踊りが行われました。開始早々から子供達が多く訪れ、ヨーヨーつりなどをして遊んでいます。談話室の中ではプロのカメラマンによる撮影も行われており、女の子や親子らが写真を撮ってもらっていました。日が暮れてきたあたりからお客さんもますます増え始め、盆踊りの曲が流れ始めるとみんな輪になって踊るなど、盛り上がった様子でした。



▲ 山岸での夏祭りの様子

した。オリエンテーリングでは、仮設や大船渡に関わるクイズが団地内のいろいろな場所に貼られ、小学生がチームに分かれて次々に問題を解いて歩く姿もありました。

このほかには、毎月仮設ライブツアーに来ていただいている奥野ひかるさんをゲストに迎えた団地も。それぞれ仮設団地でのひと夏のイベントを楽しんでいました。

支援員ニュース おじゃましてす

支援員を支える 地区マネージャーの役割



▲ 神永マネージャーの仕事の様子

各仮設団地に支援員がいるのは皆さんご存知だと思いますが、末崎や大船渡など各地区ごとに1人ずつ、支援員をまとめサポートする、マネージャーという役割の人がいるのはご存知ですか？

地区マネージャーの役割は、主に支援員への情報共有や相談対応、備品や資料の管理と配布、支援員の労務管理、地区ミーティングの開催などです。事務局へ持ち込まれたチラシやパンフレットなどは各マネージャーが取りに行き、自分の地区の各団地に配布します。また週に1回、全マネージャーが事務局に集まりミーティングを行い、そこ

で話し合われた事は各支援員にも共有されます。

猪川・立根地区担当の神永マネージャーは、前田仮設団地の談話室に常駐しています。1日の流れとしては、朝出勤したら、まずメールのチェックを行い、次に巡回。担当の地区の各団地を回って事務局からの配布物を渡したり、情報共有などを行います。猪川・立根地区は一番仮設団地が多く、巡回は午前から午後にかかることがほとんど。

このとき神永マネージャーは、支援員がスムーズに仕事できるように、良き相談者となることが重要と考え、支援員と色々な話をします。



▲ こちらは大船渡地区の川原マネージャーです

話をしたり相談を聞くことで解決策が見つかったり、悩みが吐き出され、住民の方々へのさらなる対応の向上にも繋がるからです。巡回から戻ると、パソコンを使い各支援員や団地の日報等の取りまとめを行います。その他、地区ごとに支援員が集まって行う地区ミーティング等の会議資料を作成したりしています。

住民さんとは直接の接点はありませんが、支援員にも事務局にも重要な存在となっています。

今月のスマイル

僕たち小さな支援員！



▲ 笑顔が似合う、友希君(左)と陽介君(右)

末崎地区の山岸仮設団地には、ちよつと小さな支援員として活躍している、川原友希君と近藤陽介君がいます。

うになり、いつの間にか名札まで用意されてあったんだとか。夏休みの間は、ほぼ毎日のように集会所に来てお

2人は小学五年生で、普段は剣道の練習に励むスポーツマン。四年生の時に山岸の支援員に頼まれて手伝うよ

手伝いをしています。2人の仕事は、遊びに来る子供たちに靴をちゃんと片付けるように注意したり、テレビゲー

ムの使用時間や見る位置を守らせたりする役目です。山岸の支援員も助かるようで、とても頼りにされています。「同級生たちがいたずらばかりして大変だったりするけど、悪いことをしていたら支援員に言うんだよ！」と、子供らしい一面も見受けられました。

2人に山岸の支援員の人は、どうですかと聞くと、「優しいってことにしてく！」と照れくさそうな顔で話し、仮設住宅がなくなるまでは、続けるんだよな！と支援員に言われると、にやけながら、どうしようかなとお互いに顔を見合わせたあと、笑顔で「うん!!」と答える2人でした。

おおふなの記憶

ピースはめらい

震災後、赤崎町のバス停には民間団体がよって雨よけの停留所が設置されました。絵は児童らが描きました。



趣味に活かしてみませんか？

支援員研修会で手芸、工作の展示

先日リアスホールにて、支援員の全体研修が行われました。今回は仮設住民の方々との趣味や日々のやりがいにつなげて欲しいという目的で、支援員と一緒に各仮設団地の住民の方が作った手芸や工作などの作品が展示されました。会場では支援員同士が、材料や作り方などの情報交換をしていました。今回展示された作品の中から、8点をご紹介します。気がなったものがありましたら、事務局、または支援員に聞いてみてください。



- ① 前田団地の作品。クタツとした、編みぐるみの可愛いネコちゃんです。
- ② 木町団地のリボンストラップ。細いリボンを編みこんで作ります。
- ③ 館下団地の、溶かしたろうで作るワックスポール。ロウソクの明かりにホッ。大豆沢団地の切り絵。細かいけど、達成感がすごそうですね。
- ④ 仲崎浜団地の夢つかむにゃん。洗濯ばさみを使って作ります。
- ⑤ 浦嶺団地の作品。タオルを使って作られたうさぎが可愛いですね。
- ⑥ 山岸団地は木製の懐かしい玩具の数々。大人も夢中になってしまいます。下権現堂団地の作品は、木のテープを編み込んだ素敵なカゴやコースター。
- ⑦
- ⑧

編集後記

時間が過ぎるのは早いもので、この支援員新聞「はまらい」を発行してから1年が経ちます。楽しめて、興味がわくような新聞になっていますでしょうか。

最初は何をするにも「？」で、苦戦していましたが、今では慣れてきて取材から完成まで、楽しみながら作業できるようになってきたような気がします。また、取材を通してボランティアや支援団体の方々、そして支援員と住民の方々とも深いお話をすることもできました。この仕事に就いて、とても良い経験をしているなあ日々感じています。

これからも読者の方々が、へえ～と思える新聞を工夫しながら作っていきなあと考えています。2年目の「はまらい」も乞うご期待です!!(K)

ご意見・ご感想は、こちらまで。
大船渡市猪川町字長洞 62-1
大船渡仮設住宅支援事業事務局内
TEL : 0120-628-638
E-Mail : ofnt_otoiawase@yahoo.co.jp